

肺がん検診

**Q1. 肺がん検診を昨年はA病院で受けました。
今年は、B病院で受けようと思いますがいいでしょうか？**

肺がん検診では、胸部エックス線撮影をします。胸部エックス線写真には、肺のほかに肋骨などの骨や多数の血管などが重なり合って写ったり、あるいは古い炎症の後などが写ります。このため、2人の医師が診断し、異常が疑われる場合は3人目の医師が以前の写真と比較して新しい影がないかどうかを最終判断します。したがって、特別の事情がない限り毎年同じ医療機関で肺がん検診を受けられることをお勧めします。

**Q2. 私はタバコを吸いますが、肺がん検診で痰も検査に出すように言われました。
必要ですか？**

喫煙者に多い肺がんは、肺の大きな血管の近くの気管支にもできやすいので、レントゲンでは、血管が重なり合って早期に見つけにくいことがあります。ところが、タバコが原因の肺がんは、気管支にできることが多く、痰の中にがん細胞が剥がれて混じりやすいので、早期に肺がんを発見できる場合があります。喫煙者はできるだけ痰の検査もしましょう。

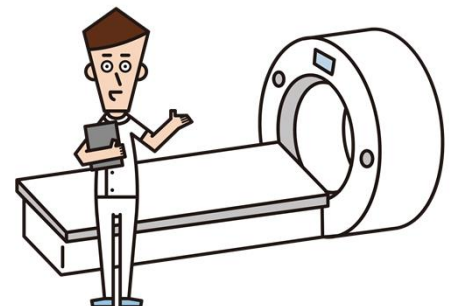
**Q3. 胸部エックス線ではわからない肺がんが、自費の低線量胸部CT肺がん検診で
わかると聞きましたが本当ですか？**

胸部CT肺がん検診では、胸部エックス線写真では見えない小さな影やすりガラス影、炎症後の古い影、何とも言えない影などが見えます。

現在ははっきりしているのは、喫煙者の場合は胸部CT肺がん検診を受けると死亡率が下がるということです。

しかし、非喫煙者の場合は、確かに肺がんは胸部エックス線写真と比べて多く見つかりますが、死亡率が下がるかどうか結論が出ていないようです。見つからなくてもよかった小さな影が見つかってずっと気にされる人もいます。がん家系で、がん年齢になり心配な人や喫煙者の方は間隔をあけて受診してもいいかもしれません。

しかし、低線量とはいえ、胸部エックス線写真よりもはるかに多く被ばくする検査ですので、そのリスクを理解しておくことも大切です。



胃がん検診

Q1. バリウム検査と内視鏡検査どちらがいいですか？

それぞれに一長一短があります。

バリウム検査は、胃全体の影がわかり比較的にながな検査です。しかし、かなり被ばくしたり、下剤を飲む必要があります。また、精密検査が必要になれば内視鏡検査をする必要があります。一方、内視鏡検査は、内視鏡がのどを通るときにつらかったり、鎮静を希望された場合は、時間が多く必要になります。しかし、実際に目で見るわけですので早期の胃がんが発見しやすく、必要であればその場で精密検査をすることもできます。

Q2. 胃がんの原因は、ピロリ菌感染がほとんどと聞きました。

私は、ピロリ菌がいたので、除菌治療をしました。

胃がん検診はもう受けなくていいですか？

ピロリ菌の治療をされたことで、胃がんになるリスクは減りましたが、まだピロリ菌に感染していない人に比べると胃がんになる危険性は高い状態です。必ず、定期的に胃の検査を受けましょう。

Q3. 私は、胃がんリスク検査でA群でした。ピロリ菌感染の可能性は低いとのことでした。

やはり、胃がん検診を受けないといけないのでしょうか？

胃の内視鏡検査などをするときには、胃だけでなく、下咽頭、喉頭、食道、十二指腸も見えます。ピロリ菌と関係ないがんや粘膜下腫瘍が見つかることがあります。定期的に胃がん検診を受けるようにしましょう。



大腸がん検診

Q1. 私には痔があります。大腸がん検診の結果は陽性で精密検査が必要とのことですが、しかし、痔から時々出血しますので、そのせいではないかと思えます。放置していいですか？

大腸の病気と、痔が両方あることがありますので、早期発見のため必ず大腸内視鏡検査を受けてください。

Q2. 大便の潜血反応で陽性、要精密検査と結果がきました。しかし、前の日にレアの肉を食べました。そのせいではないでしょうか？

現在の便潜血反応は、人の血のヘモグロビンに対する免疫反応で判断しています。牛の血には反応しませんので、必ず大腸内視鏡検査を受けてください。

